

【 専門分野 】 母性看護学 6単位 195時間

I. 科目構築の考え方

母性看護学は、ひとりの人間の生涯における性と生殖に焦点を当て、その人らしく健康で安寧に生きる権利を支援する看護を学ぶ。ここでいう母性とは女性をさす概念ではなく、多様な性のとらえ方をさす。また、人間は身体的・精神的・社会的・性的に統合された存在であり、社会環境の影響や個人の多様な価値観によって形成される。人間にとっての性はアイデンティティとして社会とつながり、豊かなライフサイクルを生き抜くためのエネルギーである。同時に、その性的アイデンティティの多様性は尊重されるべき権利であり、生殖性（産む産まない）に関する意思決定は尊重されなければならない。母性看護学の対象は、基本的にはセルフケア能力が高く、適切な支援によって健康レベルは維持・増進が可能であり、保健活動との関連が深い。胎生から死に至るライフサイクルの節目において、さまざまな危機と健康障害に直面する。母性看護学では、ライフサイクルをとおして生涯にわたる健康支援を学ぶ。これらの概念や母性看護における看護の役割や機能について学ぶ内容として母性看護学概論を設定する。次に、成人期（成熟期）の周産期は、生命誕生の奇跡と同時に生命の危機に直面することから家族を含めた援助が重要であるため母性看護学方法論Ⅰ（周産期看護）を設定する。次に、ライフサイクル各期の危機と健康問題および健康レベルに応じた看護を学ぶ内容として母性看護学方法論Ⅱ（婦人科を含む）を設定する。臨地実習では、周産期看護を学ぶ内容として母性看護学実習を設定する。

II. 目的・目標

1. 目的

身体的・精神的・社会的・性的に統合された人間の性的側面に焦点をあて、ライフサイクル各期の特徴や健康レベル・健康問題を理解し、多様な場であらゆる健康レベルにある看護の対象を支援する知識・技術・態度を学ぶ。

2. 目標

- 1) 母性看護に関する性や性的健康に関する多様な価値観や概念を理解する
- 2) 多様な場で生活する母性看護の対象を理解し、看護の対象を取り巻く社会と看護ニーズを理解する
- 3) 看護の対象のライフサイクルの特徴を理解し、看護の対象の健康レベルや健康問題のリスクに応じた看護を理解する
- 4) 妊娠から産褥にいたる正常な経過と生理的特徴を理解し、安全・安心な周産期を経過できるための看護を理解する
- 5) 胎児から新生児にいたる正常な成長・発達の経過と生理的特徴を理解し、母体外生活適応を促進する看護を理解する
- 6) 周産期（妊産褥婦および胎児または新生児）におけるハイリスクや異常経過を理解し、その診断や医学的対応および管理の方法を理解する

Ⅲ. 科目の構成

専門分野	科目名 (時間)	単元 (時間)
母性看護学 6 単位 195 時間	母性看護学概論 (1 単位 15 時間)	母性看護の基礎となる性や健康に関する概念 (5)
		母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 (2)
		母性看護の対象理解 (2)
		母性のライフサイクルにおける健康支援 (4)
		母性の健康レベルに応じた支援と社会資源 母性看護における倫理 (2)
	母性看護学方法論 I (2 単位 60 時間)	正常な妊娠の経過及び対象の生理的特徴 (2)
		妊娠期の特徴をふまえた看護 (6)
		正常な分娩の経過及び対象の生理的特徴 (2)
		正常な経過をたどる分娩期の看護 (6)
		正常な産褥の経過及び対象の生理的特徴 (2)
		産褥期の特徴をふまえた看護 (4)
		産褥期に必要な看護技術 (4)
		胎児の発育及び早期新生児の生理的特徴と看護 (12)
		産科における看護 (4)
		事例展開 (16)
		母子をめぐる保健・医療・福祉の連携・協働 (2)
	母性看護学方法論 II (1 単位 30 時間)	母性の健康レベルに応じた看護の基本 (4)
		母性 (女性) の健康レベルに応じた看護 (6)
		周産期にある対象の健康レベルに応じた看護 (18)
		母性看護における専門的な支援 (2)
母性看護学実習 (2 単位 90 時間)	周産期看護	
	子育て支援	

IV. 授業の概要 (シラバス)

分野	専門分野	科目名 単位 (時間)	母性看護学概論 1 単位 (15 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 後期
講師名 所属	山本 真由美 嬉野医療センター附属看護学校 教育主事 実務経験:看護師 16 年 佐々木 真由美 長崎県看護キャリア支援センター 看護師 助産師						
授業概要	人間を身体的・精神的・社会的・性的に統合された存在として理解し、生と性、性と生殖の観点から多様な価値観に基づく性的健康について学ぶ。母性看護学における看護の対象は「女性」「母親」に限局せず、人間のライフサイクル各期におけるあらゆる健康レベルのすべての人びとである。性に関する概念や考え方は看護の対象の環境(社会や時代背景)が影響しており、看護の対象個人の問題としてだけではなく広くとらえることが必要である。また、看護の対象が健康でその人らしく生きるための支援についてライフサイクル各期の特徴と健康ニーズを理解し、保健・医療・福祉の連携・協働によって健康レベルを促進することを学ぶ。ライフサイクルの中では妊娠・出産・育児は最も健康レベルが変化しやすいため、母体と胎児・新生児のケアが重要であり、保健・医療・福祉の連携・協働とともに地域をまきこんだ援が必要である。これらの看護ニーズについて学ぶ内容であり、小児看護学概論、成人・老年看護学概論、精神看護学概論、地域・在宅看護論と並行しながら学ぶ。						
科目目標	1. 母性看護の基礎となる性や健康に関する概念を理解する 2. 看護の対象の健康の意義および健康に影響を及ぼす要因を理解する 3. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷及び現状を理解する 4. 看護の対象のライフサイクル各期の特徴と看護を理解する 5. 自己の生と性、性と生殖に関する価値観を考える機会とする						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院						
参考文献	国民衛生の動向 厚生統計協会						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート	○	技術試験		
	口頭試問		授業態度		出席状況		
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1	1. 性と生、性と生殖に関する概念とその現状 1) 性に関する概念の理解 (1) セクシュアリティ (2) 性に関する価値観の多様性 セックス、ジェンダー (3) 性の発達・成熟・継承 母性、父性、親性、母親役割、父親役割 母子相互作用、愛着形成 家族の発達・機能 2) 性と生殖に関する健康と権利の理解 (1) リプロダクティブヘルス/ライツ			講義		山本 真由美	

2	<p>1. 性と生、性と生殖に関する概念とその現状</p> <p>3) 性と生殖に関する価値観の変遷と現状</p> <p>* 演習課題：映画や雑誌などの教材の中に描かれる性と生殖に関する価値観について私見を明らかにする</p>	講義・演習	山本 真由美
3	<p>2. 母性看護の対象を取り巻く社会環境の変遷と現状</p> <p>1) 母性看護の対象 女性の就業率、婚姻、離婚</p> <p>2) 母性看護の対象を取り巻く社会環境 周産期医療のシステム 在留外国人の母子支援</p> <p>3. 母性看護の変遷と現状</p>	講義	
4	<p>4. 母性看護の対象理解</p> <p>1) 身体的・精神的・社会的・性的存在としての理解</p> <p>2) 母性における健康の概念と健康レベル</p> <p>3) ライフサイクルの特徴とヘルスプロモーション</p> <p>4) 母性をめぐる家族・集団・コミュニティ</p>	講義	
5	<p>5. 母性のライフサイクルにおける健康支援</p> <p>1) ライフサイクルにおける母性の特徴</p> <p>2) ライフサイクル各期における課題と健康レベル</p>	講義	佐々木真由美
6	<p>5. 母性のライフサイクル各期における健康支援</p> <p>3) ライフサイクル各期の健康問題と健康支援</p> <p>4) セルフケア能力とヘルスプロモーション</p> <p>* 演習課題：ライフサイクルの中で変化が著しい思春期、更年期、老年期における健康課題とその健康支援についてレポートを作成する</p>	講義・演習	
7	<p>6. 母性の健康レベルに応じた支援と社会資源</p> <p>1) 母性に関する保健・医療・福祉制度と関連職種</p> <p>2) 健康レベルに応じた保健活動と関係法令 母子保健法 児童福祉法 児童虐待の防止等に関する法律 次世代育成支援対策推進法 成育過程にある者及びその保護者並びに妊産</p>	講義	山本 真由美

	<p>婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律 <成育基本法></p> <p>雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律 <男女雇用機会均等法></p> <p>育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律 <育児・介護休業法></p> <p>労働基準法</p> <p>3) 健全母性育成と地域・コミュニティのあり方 子育て世代包括支援センター <母子健康包括支援センター></p> <p>配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 <DV防止法></p> <p>母体保護法</p> <p>7. 母性看護における倫理</p> <p>1) 母子看護における安全・事故防止</p> <p>2) 母性看護における倫理的課題と支援のあり方</p>		
8	終講試験	試験(評価)	単位認定者 山本 真由美

分野	専門分野	科目名 単位 (時間)	母性看護学方法論 I 2 単位 (60 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2 年 前期
講師名 所属	公文 琴乃 中村 祐子 島田 雅子 久保 亜希子 坂口 尚子 佐々木 真由美 蒲原 知愛子	嬉野医療センター助産師 嬉野医療センター助産師 嬉野医療センター助産師 嬉野医療センター助産師 助産師 長崎県看護キャリア支援センター 看護師 助産師 (元) 嬉野市 助産師 保健師					
授業概要	<p>この科目では、性機能が成熟している成人が、互いに助け合いながら新たな命と家族をはぐくむ周産期に焦点をあてて学ぶ。</p> <p>妊娠期は、妊婦とその家族のセルフケア能力が高く、健康レベルも高いことから、周囲のサポートと保健・医療・福祉の連携・協働によって妊娠を経過することが多い。しかし、近年の社会環境は著しく変化しており、特別な支援を要する妊婦とその家族や多様な価値観をもつケースも多い。すべての妊婦とその家族が健康で健やかな妊娠経過を過ごし、安全・安心な分娩・育児期を迎えられるよう保健活動を含めながら学ぶ。分娩期は、正常妊娠経過であっても胎児と妊婦が生命の危機に直面するケースもある。近年はハイリスク妊娠も増えており、小児科との連携が必要なケースもある。産婦とその家族が安全にバースプランにそって適切な医療と看護を受け、分娩がよい体験としてその後の産褥・育児期のエネルギーになるよう専門的な看護を学ぶ。また、助産に関わる部分は助産師がリーダーシップを発揮し、産婦とその家族に寄り添い助産を行うため、看護師はそのサポートを行う。また、分娩は胎児にとってもハイリスクな状況にあるため、高い観察力によって迅速な医学的対応に備える。産褥期は、身体の復古現象と新たな命を育てる進行性変化(母乳栄養)や新たな親としての役割獲得期である。また、母体外生活に適応していく新生児のケアである育児技術の獲得期でもある。これらの特徴とその看護を理解し、退院後の生活を見据えて保健・医療・福祉の連携・協働の重要性と関係法令、その家族を支える地域のあり方を学ぶ。</p>						
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な妊娠の経過及びその対象の生理的特徴を理解する 2. 妊娠期の身体的・心理的・社会的特徴をふまえた看護を理解する 3. 正常な分娩の経過及びその対象の生理的特徴を理解する 4. 正常な経過をたどる分娩期の看護を理解する 5. 正常な産褥の経過及びその対象の生理的特徴を理解する 6. 胎児の発育および新生児の生理的特徴を理解する 7. 正常な経過をたどる新生児の看護について理解できる 8. 妊娠・分娩・産褥・新生児の看護に必要な看護技術を習得する 9. 母子をめぐる保健・医療・福祉の連携・協働の実際を理解する 						
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 						
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 根拠がわかる母性看護技術 メヂカルフレンド社 						

	2. ペリネイタルケア メディカ出版 3. 助産雑誌 医学書院				
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照				
	筆記試験	○	レポート		技術試験
	口頭試問		授業態度		出席状況
授業計画					
回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師		
1	1. 妊娠期における生理的特徴及び診断 1) 妊娠期の身体的特性 (1) 妊娠の生理 (2) 胎児の発育とその生理 (3) 母体の生理的变化 2) 妊娠期の心理・社会的特性 (1) 妊婦の心理 (2) 妊婦と家族及び社会	講義	坂口 尚子		
2	2. 妊娠期における母体と胎児の特徴とアセスメント 1) 妊娠期における母体の特徴とアセスメント 2) 妊娠期における胎児の成長とアセスメント 3) 妊娠期における心理・社会的特徴とアセスメント 3. 妊婦と家族の看護 1) 妊婦が受ける母子保健サービス (1) 妊娠の届出と母子健康手帳の交付 (2) 妊娠健康診査 (3) 保健指導 (4) 健康相談・教育の目的とその方法	講義			
3	2) 妊婦の健康相談・教育の実際 (1) 妊娠中の食生活 (2) 排泄 (3) 清潔と衣生活 (4) 活動と休息 (5) 妊婦の勤労 (6) 妊娠中の性生活 (7) 妊娠中のマイナートラブル 3) 親になるための準備教育 (1) 出産準備教育 (2) 育児準備のための健康相談・教育 (3) 家族役割調整のための健康相談・教育	講義			
4	4. 妊娠期に必要な看護技術	演習			

	<ul style="list-style-type: none"> 1) レオポルド触診法 2) ドップラー法 3) 子宮底長・腹囲の測定 4) 乳房の観察・測定 5) ノンストレステスト 		
5	<ul style="list-style-type: none"> 5. 分娩期における生理的特徴及び診断 <ul style="list-style-type: none"> 1) 分娩の要素 <ul style="list-style-type: none"> (1) 分娩の経過 (2) 分娩の3要素 (3) 胎児と子宮及び骨盤との関係 (4) 分娩の機序 2) 分娩の経過 3) 分娩が胎児に及ぼす影響 4) 分娩期におけるリスク 	講義	公文 琴乃
6	<ul style="list-style-type: none"> 6. 分娩期における看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 分娩の時期・経過・分娩の三要素 2) 分娩経過に伴う産婦の身体的変化 分娩経過に伴う胎児の胎向変化 3) 産婦の心理・社会的変化 	講義	
7	<ul style="list-style-type: none"> 7. 分娩経過とその看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 分娩開始の診断から第1期の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1) 陣痛および胎児の観察 (2) 産痛と産痛緩和 (3) 呼吸法と弛緩法 (4) 分娩を促進する日常生活の援助 (5) 感染予防 2) 分娩第2期の看護 3) 分娩第3期の看護 4) 分娩第4期の看護 	講義	
8	<ul style="list-style-type: none"> 8. 分娩期に必要な看護技術 <ul style="list-style-type: none"> 1) 陣痛および胎児の観察 2) 産痛緩和 3) 呼吸法と弛緩法 	演習	
9	<ul style="list-style-type: none"> 9. 産褥期における生理的特徴及び診断 <ul style="list-style-type: none"> 1) 産褥経過とその特徴 2) 産褥期におけるリスクと診断 10. 産褥期における看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 産褥期における退行性変化の特徴とアセスメント 2) 産褥期における母乳栄養確立とアセスメント 	講義・演習	中村 祐子

	3)産褥期における心理・社会的特徴とアセスメント		
10	11. 産褥期の経過を促進する看護 1)子宮及び全身の復古現象(退行性変化)の促進 2)母乳栄養の開始(進行性変化)の促進		中村 祐子
11	12. 産褥期に必要な看護技術 1)子宮及び全身の復古を促進する技術 (1)子宮及び全身の復古に与える影響因子 (2)子宮及び全身の復古の診断(観察) (3)復古を促進するマッサージ、産褥体操		
12	2)母乳栄養の開始と母乳栄養確立を促進する技術 (1)母乳栄養に与える影響因子 (2)母乳栄養開始時の育児技術 (3)母乳栄養を促進するマッサージ (4)母乳栄養に関するトラブルと管理方法		
13	13. 産褥期に必要な看護技術 3)親役割獲得と母子相互作用 (1)母親役割獲得とマタニティブルー (2)父親役割獲得とクバート (3)祖父母や兄弟の心理		
14	14. 早期新生児期における生理的特徴及び診断・治療 1)分娩経過と胎児 2)出生直後の呼吸・循環状態 3)早期新生児期における母体外生活適応	講義	佐々木真由美
15	15. 早期新生児期における看護 1)出生直後の看護 (1)出生直後の観察 (2)出生直後の新生児の予備力に応じた保温 (3)その後の経過影響を与える因子の診断(計測) 2)出生から24時間までの看護 (1)母体外適応能力の観察 (2)早期授乳・早期母子相互作用の促進	講義	
16	3)出生後から退院時までの看護 (1)体温の維持 (2)生理的黄疸の観察と診断 (3)生理的体重減少と体重増加 (4)哺乳と排泄の観察と診断 (5)全身状態の変化	講義	

17	<p>4) 退院時の看護</p> <p>(1) 退院時診察</p> <p>(2) 両親の育児に関する知識・技術・支援状況</p> <p>5) 退院後の看護</p> <p>(1) 育児不安と育児支援</p> <p>(2) リスクのある新生児のフォロー</p> <p>(3) 活用可能な社会資源と関係職種</p> <p>(4) 職場復帰と育児支援</p>	講義	佐々木真由美
18	<p>16. 早期新生児に必要な看護技術</p> <p>1) アプガースコアとバイタルサイン</p>	演習	
19	<p>2) 身体計測</p> <p>3) 黄疸の計測と診断</p> <p>4) 沐浴</p>		
20～21	<p>17. 産科における看護</p> <p>1) 産科病棟の特徴と管理</p> <p>2) 産科における医療安全と事故防止</p> <p>・ 妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期に起こりやすい事故と事故防止対策</p> <p>3) 産科領域における倫理</p>	講義	島田 雅子
22～29	<p>18. 事例展開</p> <p>1) 周産期にある対象の看護の特徴</p> <p>2) ヘルスプロモーションでの視点の考え方</p> <p>3) 妊娠期・分娩期・産褥期にある対象の把握</p> <p>4) 妊娠期・分娩期・産褥期に必要な援助</p> <p>・ 正常な妊娠経過を促進する援助</p> <p>・ 正常な分娩経過を促進する援助</p> <p>・ セルフケアを促進する援助</p> <p>・ 母子相互作用を促進する援助</p> <p>・ 産後の生活、育児の促進に向けた援助</p> <p>5) 新生児期にある対象の把握</p> <p>6) 母体外生活適応を促進する援助</p>	演習	久保 亜希子
30	<p>19. 母子看護を支える地域と社会資源</p> <p>1) 母子保健法と児童福祉</p> <p>2) 法令と関係職種</p> <p>3) 地域における支援体制</p>	講義	蒲原 知愛子
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 久保 亜希子

分野	専門分野	科目名 単位 (時間)	母性看護学方法論Ⅱ 1単位 (30時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2年 後期												
講師名 所属	本石 翔 嬉野医療センター 産婦人科医師 院内講師 嬉野医療センター 小児科医師 梶原 智絵 嬉野医療センター 助産師 坂口 尚子 助産師 山本 真由美 嬉野医療センター附属看護学校 教育主事 実務経験：看護師 16年																		
授業概要	母性看護の対象のライフサイクル各期において生じやすい健康問題と健康レベル(疾病の予防、健康の回復)における医学的対応とその看護について学ぶ。母性看護の対象である人間は成長・発達、老化の中でさまざまな健康問題に直面するが、適切な予防や早期発見、治療、その後の管理によって健康レベルの回復が可能である。また、成人期は性の成熟期であり、周産期の健康問題が生じることがあり、家族を含めた看護が重要である。成人期はセルフケア能力が高く、社会資源へのアプローチが可能である。初老から老年期では、その人の社会背景や生活習慣、主観的健康観などの影響を受け、老化現象もあいまって健康レベルが低下しやすく、生活の質に影響を与えやすい。それらをふまえ、この科目では成人期から老年期にある看護の対象の健康問題と健康レベルを医学的対応と管理に焦点をあてて学ぶ。																		
科目目標	1. 母性看護の対象のライフサイクルにおける健康ニーズを理解する 2. 成人期から老年期に生じやすい健康問題とその診断・医学的対応・管理を理解する 3. 成人期から老年期にある看護の対象の健康レベル(疾病の予防、健康の回復)に応じた看護を理解する 4. 成人期にある看護の対象の周産期における健康問題と健康レベル(疾病の予防、健康の回復)に応じた診断や医学的対応・管理を理解する 5. 周産期(妊娠・分娩・産褥および胎児・新生児)にある看護の対象の健康レベルに応じた看護を理解する																		
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 女性生殖器 成人看護学[9] 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野 腎・泌尿器 成人看護学[8] 医学書院 4. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 5. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院																		
参考文献	1. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院																		
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">筆記試験</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">○</td> <td style="width: 25%;">レポート</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 20%;">技術試験</td> <td style="width: 10%;"></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> </tr> </table>							筆記試験	○	レポート		技術試験		口頭試問		授業態度		出席状況	
筆記試験	○	レポート		技術試験															
口頭試問		授業態度		出席状況															
授業計画																			
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師													
1・2	1. 母性(女性)の健康レベルに応じた看護 1) 健康の回復と医療 (1) 女性のライフサイクル各期の健康障害と医			講義		本石 翔 ほか													

	療 ①女性生殖器の構造と機能 二次性徴、性周期（初経、月経） ②主要症状と病態生理 ③診察・検査・診断・治療・処置 ④主な疾患と治療および予後 ・機能障害(月経に関する疾患) ・子宮、卵巣、乳房に発生する腫瘍 ・性感染症<STI> ・不妊症（男性不妊症、女性不妊症） ・生殖補助医療 ・性暴力被害 ・人工妊娠中絶 (2) 更年期の健康障害と医療 ・ホルモン変化 (3)サクセスフルエイジングとアンチエイジ グ		
3	2. 母性(女性)の健康レベルに応じた看護 2) 健康の回復と医療 (2) ライフサイクル各期の健康障害と看護 ①ホルモン療法を受ける患者の看護 ②薬物療法を受ける患者の看護 ③手術療法を受ける患者の看護 ④リハビリテーションを受ける患者の看護 (3) 更年期症状のある患者の看護	講義	坂口 尚子
4	2. 母性(女性)の健康レベルに応じた看護 3) 治療を受ける患者の看護の実際 (1) 乳がんのため治療を受ける患者の看護 ①ホルモン療法 ②薬物療法 ③手術療法 ④リハビリテーション	講義	山本 真由美
5	2. 母性(女性)の健康レベルに応じた看護 3) 治療を受ける患者の看護の実際 (2) 子宮がんのため治療を受ける患者の看護 ①ホルモン療法 ②薬物療法 ③手術療法 ④リハビリテーション	講義	坂口 尚子

6	<p>3. 妊娠期における胎児と母体の健康レベルに応じた看護</p> <p>1) 胎児期の異常及びハイリスク</p> <p>(1) 染色体異常</p> <p>(2) 感染症</p> <p>(3) 胎児合併症</p> <p>(4) 不育症、胎児機能不全</p> <p>2) 出生前診断</p>	講義	本石 翔 ほか院
7・8	<p>3. 妊娠期における胎児と母体の健康レベルに応じた看護</p> <p>3) 妊娠期の母体の異常とハイリスク</p> <p>流産、早産、感染症、常位胎盤早期剝離、前置胎盤、切迫流産、切迫早産</p> <p>高齢妊娠、若年妊娠</p> <p>妊娠糖尿病、妊娠貧血、妊娠悪阻</p>	講義	本石 翔 ほか
9	<p>3. 妊娠期における胎児と母体の健康レベルに応じた看護</p> <p>3) 妊娠期の母体の異常とハイリスク</p> <p>(1) 基礎疾患や障害</p> <p>(2) 多胎妊娠と合併症</p> <p>(3) 妊娠高血圧症候群</p> <p>(4) その他</p>	講義	本石 翔 ほか
10	<p>4. 分娩期における胎児と母体の健康レベルに応じた看護</p> <p>1) 分娩期の胎児及び母体の異常とハイリスク</p> <p>(1) 胎児仮死</p> <p>(2) 分娩経過にともなう異常(回旋や陣痛、出血など)</p> <p>(3) 分娩誘発剤使用時の母体の変化</p>	講義	本石 翔 ほか
11	<p>4. 分娩期における胎児と母体の健康レベルに応じた看護</p> <p>1) 分娩期の胎児及び母体の異常とハイリスク帝王切開を受ける母子の看護</p>	講義	梶原 智絵
12・13	<p>5. 産褥期における胎児と母体の健康レベルに応じた看護</p> <p>1) 産褥期における新生児及び褥婦の異常とハイリスク</p> <p>(1) 新生児の異常とハイリスク</p> <p>① 分娩に伴う呼吸障害など</p> <p>② 低出生体重児・早産児</p>	講義	院内講師

	③経過中に生じる黄疸など		
14	<p>5. 産褥期における胎児と母体の健康レベルに応じた看護</p> <p>1) 産褥期における新生児及び褥婦の異常とハイリスク</p> <p>(2) 褥婦の異常とハイリスク</p> <p>①退行性変化に伴う異常(復古不全、感染など)</p> <p>②進行性変化に伴う異常(乳腺炎など)</p> <p>③精神的変化に伴う異常(産褥精神病、育児不安など)</p>	講義	梶原 智絵
15	<p>6. 専門的な支援を必要とするカップルや夫婦の支援</p> <p>1) 不妊症</p> <p>(1) 不妊の定義、原因、治療</p> <p>(2) 不妊治療を支援する制度と関連職種</p> <p>2) 障害をもつカップルや夫婦の支援</p> <p>(1) 妊娠から育児に伴う母体やその家族への影響</p> <p>(2) カップルや夫婦を支援する制度</p> <p>3) 性に関する多様な価値観をもつ人びとの支援</p>	講義	坂口 尚子
	終講試験	試験(評価)	単位認定者 本石 翔